

将来、家づくりやリフォームを考える人に役立つ住宅コーナー

これからの家づくり

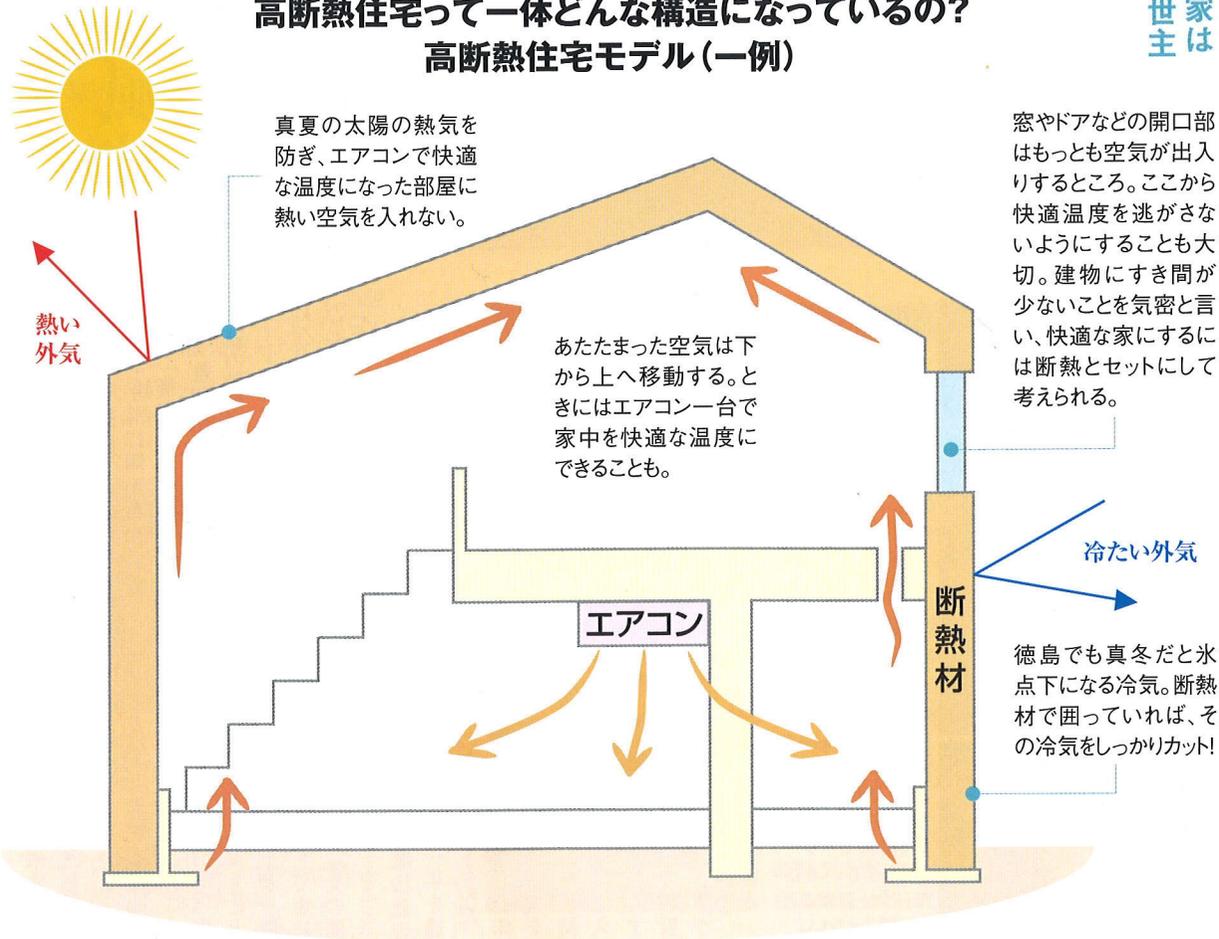
冬あったか、夏涼しい! 高断熱の家

高断熱=断熱材で覆われた家はランニングコストを下げる救世主

寒いなか、ようやく家路に着いたとき部屋のなかで寒かったらなんだかガッカリ。「エアコン効くまで我慢せよ」という忍耐も、高断熱の家なら必要なし。断熱材とは簡単に言うと「熱伝達を防ぐ材料」のこと。断熱材で家を包んであげれば冬の冷気は入ってこないし、エアコンなどで温まった室内の空気も外に逃げない。さらには温かい空気は下から上に移動する性質があるので、高断熱であれば1階にストーブなどの暖房器具があるだけで、その温かい空気が2階にも伝わり、部屋のドアを開けておけば家のなかの温度差もなくなるというわけ。急激な温度差によって血圧が急上昇や急下降するヒートショックを防ぐ効果もあるのだ。健康面でも欠かせない材料なのだ。高断熱の家を建てるにはメーカーによっていろいろな種類があり、また建設会社によって施工方法も違う。詳しくは次ページから始まる高断熱の家を作っている会社に聞いてみよう。

高断熱住宅って一体どんな構造になっているの?

高断熱住宅モデル(一例)



設計士の実体験から生まれた 高気密高断熱を採用した和風住宅 亀井組のモデルハウス「悠久の住まい」



おおきな吹き抜けがあるLDK。建坪約55坪ながら、暖房器具はエアコン1機のみ。床暖房が敷設されていないのに床からほんのりとした暖かさを感じられるほど。

寒冷地で実体験した 高気密高断熱の家づくり

約20年前前に開かれた設計士や工務店関係者の全国集会以、亀井組の野口専務が北海道の設計士から聞いたキーワード「高気密高断熱」。当時はバリアフリーに注目が集まりだした時で、それほど気に留めていなかった。しかし「とにかく良いから実際に観てほしい」と声をかけられ、北海道に行きましてと野口さん。現場は北海道の旭川で、外はマイナス16度。だが家の中は床も含めて暖かい。「さすが北海道、床下暖房が完備されている」と思ったそうだが、実は暖房器具は家の中央に置かれたストーブひとつだけだった。「あの体験があるからこそ高気密高断熱のすばらしさを、知ることができた」と語る。それ以降、寒い時にこそ強い効果を感じる高気密高断熱は、暑い夏でも家中を涼しくできることも実際に

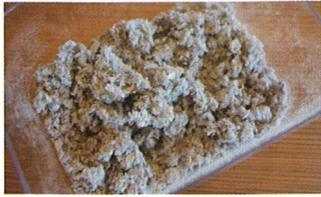
に体感したことから、厳寒地方で生まれたこの性能を「悠久の住まい」にも組み込んでいる。ポイントは天井や壁、床下の断熱材にセルローズファイバーを採用していること。なおかつ、内部側に気密シートで覆うことにより、一層気密性が上がり断熱効果が高まる。そして窓には遮熱高断熱複層ガラスの断熱気密サッシを使用すること。これにより家全体が魔法瓶のような効果を持ち、一年を通して一定の温度に保てるのだ。その上、地中熱を利用した床下換気ユニットで家中の空気を循環させ、快適な室温を維持し続けられるのだ。この「悠久の住まい」は段差のないバリアフリーに加えて家の中で温度差のないもうひとつのバリアフリーを実現している。



夏は涼しく冬は暖かい床下の地中熱を利用した空気循環させる床下換気ユニットは和室の床下に設置されている。常にモーターが回っているがモーター音はほとんど聞こえない。

断熱 リサイクル技術で 生み出された新素材

セルローズファイバーは古新聞またはダンボールを原料に製造されているため、環境にも優しい。加えてホウ酸を添加することでゴキブリなどの害虫対策としても有効であると注目されている断熱材。家が高気密高断熱になることで、カビやダニが発生しにくくなり花粉やじん埃などの侵入がほとんどないのも特徴。



保温 家の中は1年中 いつでも快適な温度

高気密高断熱により家全体が暖かいので真冬でも素足で歩ける暖かさを実現。建物の中はほぼ一定温度なのでヒートショックの心配がないのも嬉しい。



2階への吹き抜け部分も、熱がこもることなく快適な空間になっている。



1階和室 1階トイレ



2階吹き抜け 2階子ども部屋

各部屋の温度計。1階の和室とトイレ。2階吹き抜けと子ども部屋でほとんど温度差がないのがよく判る。ちなみに外は8度の寒さだった。

家の詳細データ

| | |
|-------|--|
| 使用木材 | 杉、桧 |
| 仕上材 | 床:桧板、杉板、畳/壁:和紙、ジュラク、水廻りキッチンパネル/天井:和紙 |
| 断熱材基礎 | スタイロエース/壁:セルローズファイバー/天井:セルローズファイバー |
| 住宅設備 | 水廻り:パナソニック/照明器具:パナソニック、ダイコク/太陽光:サンテックパワー |
| 施工期間 | 約7カ月 |
| 敷地面積 | 266.95(80.75)坪 |
| 延床面積 | 182.00m ² (55.05坪) |

担当 原さん 実際に「悠久の住まい」にお越しいただき家が魔法瓶のように感じているのを実感してみてください。これからの寒い季節は見学に最適ですよ。ぜひ「悠久の住まい」に遊びに来て、高気密高断熱を実際に感じてみてください。



亀井組
鳴門市撫養町
立岩七枚114
088-685-4178
朝10時~夜6時
水曜休

モデルハウス「悠久の住まい」は亀井組の隣にあります。

設計士インタビュー 野口泰英さん

段差のない家から一歩踏み出した、温度差のない家それが「悠久の住まい」のテーマのひとつ

高気密高断熱の家の存在を知ったとき、実際に極寒の旭川で暖かい家に出会えたのは貴重な経験でした。それに加えて年間1万人近くの人々が寒暖差によるヒートショックで亡くなっているというデータがあることを知り、高気密高断熱の重要性を感じました。ヒートショックは急激な温度変化を感じて血圧が急上昇・急降下することで起きるといわれています。みなさんも、暖房の効いた部屋から寒い部屋に行ったら「ゾクッ」としたことはありませんか? あれば寒いからではなく気温の変化によって血圧が変化したから起きる現象でヒートショックのひとつです。そういったことを防ぐためにも「悠久の住まい」では、家全体をセルローズファイバーで包み込み魔法瓶のような効果を持たせてあります。冬は少しの暖房で家中どこでも暖かく、夏は冷房の冷気を外に出さず外の熱気を家に入れない家になっています。ぜひ実際に体験してみてください。

